



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2024年 3月19日～3月24日

参加メンバー

(上段左から) ゆうこ(カオハ) 谷口真結子(D) 倉橋朋子(H) 栗山雅行(V) 上崎秀美(D) 羽邑紗智子(H) 沢田宗久(D) 難波智津子(D) 嶋村寿美江(H) 斎藤あすか(H) 瀬野耕司(D) 岡本社長(機械メンテ) マイケル(機械メンテ)

(下段左から) よしえ(カオハ) 高橋ひとみ(H) 植木亮裕(V) 難波琉太郎(V) 近藤恵(H) 向井まち子(H) 上田勝嗣(V) 大石胡花(V) 中津川昂平(D) クリスティーナ(機械メンテ)



活動内容

3月19日（火曜日）

フライトの大きな変更もなく、セブ マクタン空港 19時30ごろ メンバーと合流
機械メンテのマニラから来てくれたマイケル クリスティーナとも合流 カオハガンハウ
スのゆうこ トッペルたちとバンで移動し埠頭へ 埠頭でリーダーの上崎と合流しカオハ
ガンへ 潮が引き始めていたので 大事を取って外回りで上陸
到着後 事前にカオハガンハウスが部屋割りしていたので ロッジなどに荷物を運んでも
らい 夕食と簡単なミーティングをして就寝



3月20日（水曜日）

セブ在住の DH サチが合流 朝食後 準備等の説明している時に 急遽予定していた
バランガイホールの2階の使用が禁止になり(耐震性に不安があり、抜歯ルームとして
使用はできないと村長判断) バランガイホールの配置は以前のままにして、オートク
レーブはテント下の野外に設置となった。



午前診療は メンバーで準備を開始し 順次問診 治療と進んでいった。DR 瀬野が発電
機・オートクレーブを担当、日本から同行してくれた岡本社長、マイケル、クリステ
ィーナも活動に参加してくれ マイケルやクリスティーナの患者への優しい誘導や説
明にとっても助けられた。診療は、前日から来島していた周辺の島民たちが治療に来て
いた。人数も多く、抜歯・充填・クリーニングのどれか一つにしてもらいできるだけ
多くの患者を診れるようにした。



午後診療は 小学校に DR 沢田 V 栗山 V 上田 V 植木 が歯ブラシ・タオル・ノートなどをドネーションに



フッ素洗口についてのミーティングは、最終日に予定していたが、小学校の先生たちの予定があり 20 日の午後しか時間が取れなかったため、こちらも急遽 診療をぬけて DR 瀬野 DH 倉橋 カオハガンハウスゆうこ 校長、8 学年の先生、2 名の保護者代表と フッ素洗口 歯ブラシについて 話し合う。

問題となったのは、以前は雨水をためて生活用水として使用していたが、ここ数年 鳩が増え水質が良くなく 現在は購入した水(ミネラルウォーターや井戸水)を使用しているとのこと。水不足のため フッ素洗口以前に 歯ブラシもあまりできていなかったとのこと。解決策を DR 瀬野と DH 倉橋が提案し今後実践していくと決まる。



午後の診療は午前が出来なかった患者が待っていて順次治療していき、夕方ごろには各島に帰ってしまって17時を前に患者が途切れるが 次の日の準備をして終了、夕食後次の日に帰ってしまう岡本社長・マイケル・クリスティーナのために たこ焼きパーティーを前倒して開催。楽しく過ごす。



3月21日（木曜日）

朝 全員で集合写真を撮った後、岡本社長・マイケル・クリスティーナが帰る。

DR 沢田 V 上田 V 栗山 カオハガンハウスゆうこが市長との表敬訪問へ。

市長からの許可も取れた とのこと。

バラングイホールの治療は、午前中は前日と同様多く、13時ごろまで延長して治療となる。各自 抜歯 充填 クリーニング チェックアップ 滅菌と分担して診療する。

午後の診療も同様 15時30頃から患者が少なくなり 時間通り17時で終了



3月22日（金曜日）

DR 沢田 V 栗山 V 上田がパンダノン島へドネーションに。パンダノンの島民が今回0人だった。ドネーション時にDR 沢田が島民に聞いたところ、来島するための船のガソリン代がないためだったとのこと。



DH 嶋村 DH 倉橋 DH 近藤 DH 斎藤 V 大石 V 植木小学校への保健指導に。
DH 嶋村が時間をかけて作ってきた媒体を使用し 前日の夜に練習して臨む。今回は カオハガンの子供たち お馴染みの チョコムチョコという人気のチョコバーや、グミなども作成してくれて 音楽に合わせてみんなで歯磨きをした。



保健指導が終わり、キンダーから順に balan ガイホールの外で歯科検診をしていく。キンダーから5年生まで午前中に行い、午後から6年から8年まで検診していった。一般診療と併行しての検診で、数人治療する小学生を優先して 診療していった。午後16時ごろDHサチがセブに帰る。
夕食は、コテージの広場でバーベキューを開催、同時にマンゴーパーティーも開催。いつもとは違う夕食を楽しんだ。



3月23日（土曜日）

11時を目途に診療しながら、撤収作業に入っていく。撤収作業後 全員で階段に昇りて写真を撮る。

昼食後 運動会までの間 各自シュノーケルや ココナツオイル作り 海洋プラスチックでのアクセサリ作りなどで時間を過ごす。16時ごろからポントグで運動会 V植木が運動会リーダーとなりV難波V栗山と協力して リレー・綱引き・玉入れ・台風の目・だるまさんが転んだ の5種目を行う。だるまさんが転んだ には多くの子供たちが参加、ぴたっと動きを止める子供もいれば、関係なしに動く子供もいて、收拾がつかない状態が楽しかった。



夕食後の最後のミーティング前に小学生たちが母屋に。私たちに歌やダンスをプレゼントしてくれた。

今回も、うれしいことがあった。夕方の患者が減ったところに、カオハガンの島民が治療に来てくれた。いつも多いと遠慮しているけど。検診すると ほとんどが、クリーニングばかりで、20代の男性の左下の大白歯に我らがしたシーラントが残っているのをみたら、本当にうれしく思った。

参加メンバーは、むし歯が多くてびっくりしたと感想を言っているが、カルテをよく見るとわかってくることがある。むし歯の多い子供は、ほとんどが 島外の患者で、崩壊してボロボロの大人たちもほとんどが 島外の患者で、カオハガンの子供たち(低学年はコロナで不参加も原因の一つか？むし歯が多いが…)は、むし歯が少なく、セブなどの学校や職場に行ったカオハガンの高校生や年長者たちは、年2回 JDM に診てもらっているから他の島の子たちよりもむし歯が少なく 幸せなんだと自覚している子がいることを、カオハガンの島民はきれいな永久歯が多いことを、知っていてほしい。

これからも、カオハガンの子供たちの歯を守って行って欲しい。



後日送られてきたフッ素洗口の写真。指を折って数えている

総括

参加の皆さん、お疲れ様でした。

今回、新しい試みも試行しつつ 従来どおりのイベントも行い

かつ、市長表敬、他島訪問活動など担当された皆さん本当にご苦労様でした。

そのすべてが 天候にも恵まれ、粛々とトラブルもなく最後の運動会まで催行できホッと
しています。

ただ、フリータイムの過ごし方にルールを守れないメンバーがいたこと

島民の生活圏にまで入り込むメンバーがいたことなど

今後の課題ができたようです。

メンバーの皆さんの高揚感、期待感は理解しますが訪れた地域には

その場所のルールがあり、共同生活のルールも存在します。

あらためて周知徹底する責任を感じました。

また、個人的には

私が、参加させていただいてきた18年の間の変化を実感しております。

あるもので、あるがままに、

出来る事を出来る時に出来るだけ

望まれた事を望まれた時に望まれただけ
 をボランティアの心得としてましたが隔世の感です。
 医療環境も考え方も、時代とともに移り変わり、様々なリスクも
 考慮していかなければならないことを実感しています。
 次の世代のボランティアミッションを育てていってください。
 では、またいつか！

上崎

データ

治療結果

	3/20日	21日	22日	23日	合計
抜歯	108本	75本	69本	13本	265本
CR	25本	33本	64本	1本	123本
シーラント			74本		74本
SC	34人	27人	35人	14人	110人
チェックアップ			2人		2人
研磨		1件			1件
義歯修理	2件	2件			4件
フッ素塗布			57人		57人
人数	109人	85人	204人	20人	418人

島別受診者	
カオハガン	61人
カオハガンスクール	122人
パガンアン	62人
クアミング	43人
カブラン	105人
セブ	1人
無記入	1人
合計	340人